

## 令和元年度 全国学力・学習状況調査における熊谷市の結果の概要について

### 【教科調査の概要「全般」】

- 小学校国語、算数、中学校国語、数学については、正答率が全国平均を上回りました。中学校英語については、全国平均と同じでした。特に小学校国語については、全国平均を8ポイントも上回る好結果を残しています。
- 小学校国語については、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が、算数については、「数と計算」の正答率が特に高い傾向にあります。今後は、小学校算数については「量と測定」の力を高めていく手立てを計画的に講じていく必要があります。中学校国語については「読む能力」が、数学については「資料を活用する能力」が、英語については「聞くこと」が高い傾向にあります。今後は、中学校国語「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する知識・技能、数学「数と式」における基礎的な技能、英語「書くこと」の正確性を高めていく手立てを計画的に講じていくことが必要だと考えております。

### 【教科調査の概要「国語」】

- 小学校では、「梅干し作りについて『知りたいこと』を調べるために、選んだ本の『目次の一部』から、読むページとして適切なものを選択すること、「昼職人への『インタビューの様子』に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択すること」がよくできていました。一方、「目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことについては、課題が見られました。
- 中学校では、「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」こと、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」ことなど、「情景や心情を想像しながら感じたことや考えたことを書いたり、必要な情報を取り出し、伝えたいことについて、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」がよくできていました。一方、「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えを述べる」ことや「封筒の書き方を理解して書く」ことなどについては、課題が見られました。

### 【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形をつくる」こと、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする」こと、「計算の仕方を解釈し、ほかの数値の場合に適用する」こと、「代金を求める場面において、式の意味を解釈する」ことなどもよくできていました。一方、「示された求め方を解釈し、その説明を記述する」ことや「資料の特徴や傾向を読み取り判断する」ことなどについては、課題が見られました。
- 中学校では、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことや「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する」こと、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」こと、「事柄が成り立つ理由を説明する」ことといった記述式の「説明する問題」が全国と比較し、すべてよくできていました。しかし、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことや「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことについては、正答率が40%台であり、引き続き指導の改善を図っていく必要があります。また、「簡単な連立二元一次方程式を解く」ことや「反比例の表から式を求める」こと、「グラフを事象に即して解釈する」ことなどについては、課題が見られました。

### 【教科調査の概要「英語」】

- 「来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く」ことや「ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択すること」などがよくできていました。一方、「ある事柄に関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択すること」や「文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択すること」については、課題が見られました。